

令和 7 年 7 月～9 月期地域産業経営動向調査の結果をとりまとめました

堺市と堺商工会議所では、堺市内の景気動向を把握するため、令和 7 年 7 月～9 月期の地域産業経営動向調査を以下のとおり実施し、調査結果をとりまとめました。

1 調査対象 堺市内に所在する事業所 800 社（回答企業 415 社 回答率 51.9%）

2 調査期間 令和 7 年 9 月 16 日（火）～9 月 26 日（金）

3 結果概要

今期（7 月～9 月期）の前年同期比を見ると、業況判断 DI[※]が改善、売上高 DI、採算 DI、資金繰り DI が横ばい、雇用人員 DI が悪化となっている。

来期（10 月～12 月期）の予測は、雇用人員 DI が改善、業況判断 DI が横ばい、売上高 DI、採算 DI、資金繰り DI がやや悪化となっている。

今期の前年同期比を見ると、一部改善傾向にあるものの、来期見通しは複数の指標に悪化傾向が見られることから、引き続き市内企業の動向を注視する必要がある。

※「ディフュージョン・インデックス」の略称で、経済活動の状況を把握するために複数の指標をまとめて分析し、景気の方方向性を示す統計指標のこと。

○業況判断	前年同期比の指標は改善（ $\Delta 19.5 \Rightarrow \Delta 13.3$ ） 来期見通しの指標は横ばい（ $\Delta 13.3 \Rightarrow \Delta 13.3$ ）
○売上高	前年同期比の指標は横ばい（ $\Delta 5.4 \Rightarrow \Delta 4.6$ ） 来期見通しの指標はやや悪化（ $\Delta 4.6 \Rightarrow \Delta 6.7$ ）
○採 算	前年同期比の指標は横ばい（ $\Delta 7.7 \Rightarrow \Delta 7.2$ ） 来期見通しの指標はやや悪化（ $\Delta 7.2 \Rightarrow \Delta 8.2$ ）
○資金繰り	前年同期比の指標は横ばい（ $6.8 \Rightarrow 7.7$ ） 来期見通しの指標はやや悪化（ $7.7 \Rightarrow 5.3$ ）
○雇用人員	前年同期比の指標は悪化（ $1.0 \Rightarrow \Delta 3.9$ ） 来期見通しの指標は改善（ $\Delta 3.9 \Rightarrow 1.4$ ）

問
い
合
わ
せ
先

担 当 課：産業振興局 産業戦略部 産業企画課
電 話：072-228-7414
ファックス：072-228-8816

令和7年7月～9月期 地域産業経営動向調査 〔報告書〕

堺 市

〔 調査実施機関

堺 商 工 会 議 所 〕

調査の概要

1. 調査目的 堺市管内事業所の経営動向の実態を四半期毎（3月期・6月期・9月期・12月期）に調査し、業況判断指数 DI 値等により景気動向を把握する。
2. 調査対象 堺商工会議所会員事業所 800 社（建設業 200 社・製造業 200 社・卸売業 100 社・小売業 100 社・サービス業 200 社）
3. 調査期間 令和 7 年 9 月 16 日（火）～令和 7 年 9 月 26 日（金）

4. 回収率	調査対象数	回収数	回収率
建設業	200 社	105 社	52.5%
製造業	200 社	105 社	52.5%
卸売業	100 社	50 社	50.0%
小売業	100 社	54 社	54.0%
サービス業	200 社	101 社	50.5%
全産業	800 社	415 社	51.9%

【主要な表現について】

- 業況判断 … 調査対象企業が自らの業績に下した判断。
- DI 値 … 「好転」したとする企業割合から「悪化」したとする企業割合を差し引いた値。

【各項目別の DI 値の意味について】

- 業況判断 … DI 値がプラスなら「好転」を、マイナスなら「悪化」を表す。
- 売上高 … DI 値がプラスなら「増加」を、マイナスなら「減少」を表す。
- 採算 … DI 値がプラスなら「好転」を、マイナスなら「悪化」を表す。
⇒ 今期状況 … DI 値がプラスなら「黒字基調」を、マイナスなら「赤字基調」を表す。
- 資金繰り … DI 値がプラスなら「容易」を、マイナスなら「困難」を表す。
- 雇用人員 … DI 値がプラスなら「増加」を、マイナスなら「減少」を表す。
⇒ 今期状況 … DI 値がプラスなら「不足」を、マイナスなら「過剰」を表す。

調査結果の概観

今期(7月～9月期)の前年同期比を見ると、業況判断DIが改善、売上高DI、採算DI、資金繰りDIが横ばい、雇用人員DIが悪化となっている。

来期(10月～12月期)の予測については、雇用人員DIが改善、業況判断DIが横ばい、売上高DI、採算DI、資金繰りDIがやや悪化となっている。

今期の前年同期比を見ると、一部改善傾向にあるものの、特に雇用人員DIは全ての業種で悪化しており、厳しい人手不足の状況であることが窺える。来期予測では複数の指標に悪化傾向が見られることから、引き続き市内企業の動向について注視していく必要がある。

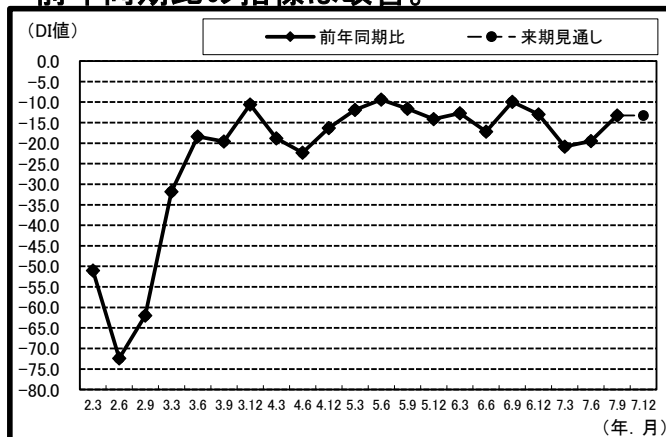
1. 業況判断の動向

・前年同期比の指標は改善
($\Delta 19.5 \Rightarrow \Delta 13.3$)

・来期見通しの指標は横ばいと予測
($\Delta 13.3 \Rightarrow \Delta 13.3$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると建設業、製造業、小売業が改善、卸売業がやや悪化、サービス業が悪化。

・前年同期比の指標は改善。



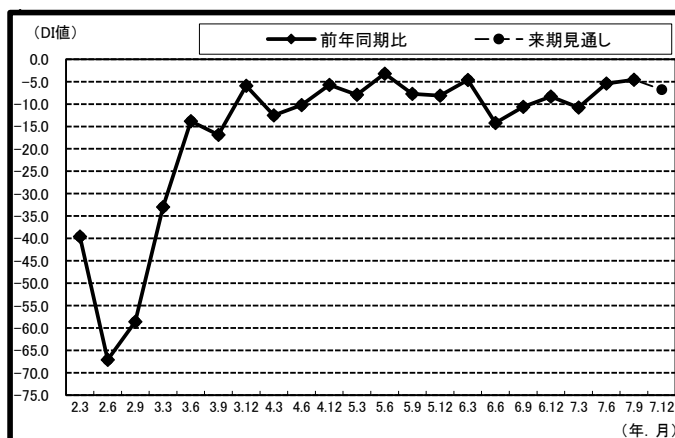
2. 売上高の動向

・前年同期比の指標は横ばい
($\Delta 5.4 \Rightarrow \Delta 4.6$)

・来期見通しの指標はやや悪化と予測
($\Delta 4.6 \Rightarrow \Delta 6.7$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、製造業が改善、小売業がやや改善、建設業は横ばい、卸売業、サービス業が悪化

・前年同期比の指標は横ばい。



3. 採算の動向

・前年同期比の指標は横ばい
($\Delta 7.7 \Rightarrow \Delta 7.2$)

・来期見通しの指標はやや悪化と予測。
($\Delta 7.2 \Rightarrow \Delta 8.2$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、小売業が2期連続で改善、卸売業が2期連続でやや改善、建設業がやや改善、サービス業は横ばい、製造業は悪化

・前年同期比の指標は横ばい。



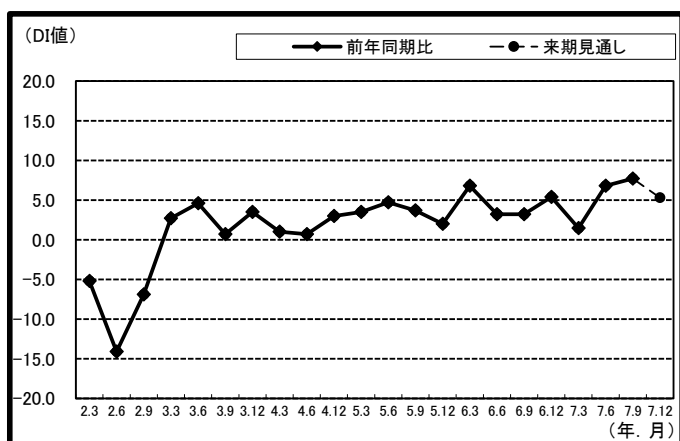
4. 資金繰りの動向

・前年同期比の指標は横ばい。
($6.8 \Rightarrow 7.7$)。

・来期見通しの指標はやや悪化と予測
($7.7 \Rightarrow 5.3$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると製造業、小売業が改善、建設業、卸売業が横ばい、サービス業が悪化

・前年同期比の指標は横ばい。



5. 雇用人員の動向

・前年同期比の指標は悪化
($1.0 \Rightarrow \Delta 3.9$)

・来期見通しの指標は改善と予測
($\Delta 3.9 \Rightarrow 1.4$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、サービス業がやや悪化、建設業、製造業、卸売業、小売業が悪化

・前年同期比の指標は悪化。

